

| 公認心理師科目 対応番号 | 開講年度 | 科目名 | 担当教員 | 副題 | 内容 |
|--------------------|--|--|-------|-------------------------|--|
| ① | 1992 | 精神病理学(早) | 保崎秀夫 | 精神医学特論一般(精神病理学・症候学を中心に) | 精神医学における物の考え方、症状のとりあげ方、疾病についての考え方等について一般的な解説を行い、臨床例について診断、鑑別診断、治療等と一緒に考えてみる。一方は身体疾患との関連で、他方社会との関わりの中から精神疾患について考えてみたい。講義を中心に、専門病院での実習を適宜まじえながら勉強する予定である。 |
| ① | 2004 | 心理学特殊研究3 | 近藤保彦 | 男と女の心理生物学 | 広義の生殖行動(性行動、性指向性、攻撃、母性行動など)について、最新の研究論文を読み、その生物学的基礎について知識を得る。 |
| ① | 2001・2002・2003 | 心理学特殊研究4 | 織田尚生 | 精神医学特論 | 精神医学を、臨床心理学との関連のもとに捉えなおす。 |
| ① | 2004・2005 | 心理学特殊研究4 | 織田尚生 | 精神医学特論 | 精神医学を、臨床心理学との関連のもとに捉えなおす。 |
| ① | 2006 | 心理学特殊研究4 (精神医学特論1) | 織田尚生 | 精神医学特論 | 精神医学を、臨床心理学との関連のもとに捉えなおす。 |
| ① | 2007 | 心理学特殊研究4 (精神医学特論1) | 織田尚生 | 無し | 精神医学を、臨床心理学との関連のもとに捉えなおす。 |
| ① | 2008 | 心理学特殊研究4 (精神医学特論1) | 小川恵 | 心理臨床の生物心理社会的モデル | |
| ① | 2009 | 精神医学特論1 | 滝川一廣 | 無し | 精神医学への理解を身につけることを目的とする。精神医学の知識を授業するよりも、精神医学とはどういうものかという理解を深めることに主眼をおきたい。心理臨床家にも必要な自薦的な知識にふれていく。 |
| ① | 2010 | 精神医学特論1 | 滝川一廣 | 精神医学とはどういうものか | 精神医学への理解を身につけることを目的とする。精神医学の知識を授業するよりも、精神医学とはどういうものかという理解を深めることに主眼をおきたい。心理臨床家にも必要な自薦的な知識にふれていく。 |
| ① | 2011・2013・2015・2017 | 精神医学特論1 | 滝川一廣 | 精神医学の基礎を学ぶ | 精神医学への理解を身につけることを目的とする。精神医学の知識を授業するよりも、精神医学とはどういうものかという理解を深めることに主眼をおきたい。心理臨床家にも必要な自薦的な知識にふれていく。 |
| ① | 2011・2013・2015・2017 | 精神医学特論2 | 滝川一廣 | 精神医学各論 | 1を踏まえて各論に入る。 |
| ① | 2018 | 精神医学特論I(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 林 公輔 | | 保健医療分野におけるチーム医療の重要性について、ディスカッションを中心に検討する。多職種で連携する重要性について学習し、自らに必要な役割について理解する。 |
| ①②③④⑤のいずれか一科目に読み替え | 2009・2010 | 臨床心理関連行政論 | 伊藤良子 | 臨床心理の社会的責務について考える | 福祉・教育・医療・司法・産業・私設相談等、多様な領域における臨床心理士の専門性を探求するため、関連する諸機関を分担して訪れるなどして、各機関の機能・法的根拠等について体験的に学ぶ。 |
| ①②③④⑤のいずれか一科目に読み替え | 2011・2012・2013 | 臨床心理関連行政論 | 伊藤良子 | 臨床心理士としての専門性を深める | 福祉・教育・医療・司法・産業・私設相談等、多様な領域における臨床心理士の専門性を探求するため、関連する諸機関を分担して訪れるなどして、各機関の機能・法的根拠等について体験的に学ぶ。 |
| ①②③④⑤のいずれか一科目に読み替え | 2014・2015 | 臨床心理関連行政論 | 伊藤良子 | 無し | 福祉・教育・医療・司法・産業・私設相談等、多様な領域における臨床心理士の専門性を探求するため、関連する諸機関を分担して訪れるなどして、各機関の機能・法的根拠等について体験的に学ぶ。 |
| ①②③④⑤のいずれか一科目に読み替え | 2016・2017 | 臨床心理関連行政論 | 田中千穂子 | 無し | 福祉・教育・医療・司法・産業・私設相談等、多様な領域における臨床心理士の専門性を探求するため、関連する諸機関を分担して訪れるなどして、各機関の機能・法的根拠等について体験的に学ぶ。 |
| ② | 2001・2002 | 心理学特殊研究1 | 青木紀久代 | 乳幼児期の家族関係と心理臨床 | 乳幼児とその家族への心理的援助に関する基本的な理論と臨床技法について学び、さらに最近の児童福祉施設における臨床実践と研究の動向について理解を深める。 |
| ② | 2003・2004・2005 | 心理学特殊研究1 | 青木紀久代 | 無し | 乳幼児とその家族への心理的援助に関する基本的な理論と臨床技法について学び、さらに最近の児童福祉施設における臨床実践と研究の動向について理解を深める。 |
| ② | 2006 | 心理学特殊研究1 (家族心理学特論1) | 青木紀久代 | 家族援助のための統合的アプローチ | 家族への心理臨床的援助に関する基本的な理論と臨床技法について学び、さらに最近の児童福祉施設における臨床実践と研究の動向について理解を深める。 |
| ② | 2007・2008 | 心理学特殊研究1 (家族心理学特論1) | 青木紀久代 | 無し | 家族への心理臨床的援助に関する基本的な理論と臨床技法について学び、さらに最近の児童福祉施設における臨床実践と研究の動向について理解を深める。 |
| ② | 2009・2010・2011・2012・2013・2014・2015・2016・2017 | 家族心理学特論 | 青木紀久代 | 無し | 家族への心理臨床的援助に関する基本的な理論と臨床技法について、文献の購読と討議を中心に学ぶ。日本における様々な児童福祉施設における子供と家族の関係性援助に、これらの理論がどのように貢献できるかについて、発展的に検討していきます。 |
| ② | 2018 | 家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) | 青木紀久代 | | 家族関係問題を中心とする、心理臨床のトピックを取り上げ、心理支援の理論と方法を学ぶ。問題の解決方法として、個人の心の問題を家族、地域社会や集団・組織に働きかける、コミュニティ・アプローチを含めて検討していく。社会的養護における家族の再統合支援についても学ぶ。 |
| ② | 2001・2002・2003 | 心理学特別研究2 | 山本政人 | 心理学研究法の検討 | 比較的新しい発達心理学の研究論文を講読し、研究動向を知ると同時に、そこで用いられている研究方法と実践的意義について検討する。 |
| ② | 2008 | 心理学特別研究6 (発達心理学特論2) | 黒川由紀子 | 高齢者の心理臨床 | 高齢者の心理臨床について、個人心理療法、グループ心理療法を中心に、事例やワークを交えて学ぶ。認知症の高齢者やその家族の心理と心理支援の方法を概観する。 |
| ② | 2009・2010・2011・2013・2015 | 老年心理学特論 | 黒川由紀子 | 無し | 老年期の心理臨床に関わる事柄について学ぶ。回想法に関する理論と実践について、ビデオやワークを交えて学ぶ。 |
| ② | 2017 | 老年心理学特論 | 越部裕子 | 初期認知症の理解を中心に | 認知症の理解、特に初期の認知症に対する神経心理学的評価の適切な実施と解釈を可能とすることを目標とする。 |
| ② | 2008 | 心理学特殊研究5 (心理療法特論2) | 高田治 | 児童福祉施設における心理的援助 | 児童福祉施設の心理援助を通して、現場で役立つ心理職となるための要件を考えることを目的とする。 |
| ② | 2009・2010 | 心理療法特論6 | 高田治 | 児童福祉施設における心理援助 | 児童福祉領域の心理援助を通して、現場で役立つ心理職となるための要件を考えることを目的とする。 |
| ② | 2012 | 福祉心理臨床特論 | 高田治 | 児童福祉施設における心理的援助 | 児童福祉施設の心理援助を通して、現場で役立つ心理職となるための要件を考えることを目的とする。 |
| ② | 2014 | 福祉心理臨床特論 | 高田治 | 無し | 児童福祉施設の心理援助を通して、現場で役立つ心理職となるための要件を考えることを目的とする。 |
| ② | 2016 | 福祉心理臨床特論 臨床心理学特別研究4 | 内海新祐 | 無し | 児童福祉領域(特に社会的養護)における心理臨床活動の概要を理解することを目的とする。この領域の歴史や現状と課題、必要な視点や技能についての理解を深めるだけでなく、医療領域や教育領域等との比較を通じて、「心理療法とは何か」「何が人を支え、成長させる要因となるのか」といった普遍的児童福祉領域(特に社会的養護)における心理臨床活動の概要を理解することを目的とする。単にこの領域の歴史や現状と課題、必要な視点や技能についての理解を深めるだけでなく、医療領域や教育領域等との比較を通じて、「心理療法とは何か」「何が人を支え、成長させる要因となるのか」といった普遍的なテーマについての考察を深める授業としたい。 |
| ② | 2018 | 福祉心理支援特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) | 内海新祐 | | |
| ② | 2018 | 障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) | 中島由宇 | | 本特論では、障害をもつ人に対する臨床心理支援について考える。学びの進め方として、まず、関係論の基礎を概説し、ついで関係論的な障害観について、とくに本特論で取り上げる発達障害に焦点をあてて講義する。これらの基礎的理解を踏まえて、こうした障害観に基づく臨床心理支援に関する事例研究を中心とした書籍・論文を講読する。 |
| ②③のいずれか一科目として読み替え | 2009 | 障害児心理学特論 | 滝川一廣 | 無し | 発達障害に対する臨床的な理解を得る。 |
| ②③のいずれか一科目として読み替え | 2010 | 障害児心理学特論 | 滝川一廣 | 発達の視点から発達障害をとらえる | 発達障害を個体のもつ脳障害に還元して捉えるのではなく、人が社会的な認識や関係を育んでゆく精神発達のプロセスを視野において、そのプロセスの遅れや躓きの現象として発達障害をとらえてゆくことをしたい。 |
| ②③のいずれか一科目として読み替え | 2012・2016 | 障害児心理学特論 | 滝川一廣 | 発達障害を精神発達の視野の中で理解する | 臨床心理学的な理解と支援は大きな課題であり、そのために必要な基礎的な知識と考え方を講じる。発達障害の理解と支援のためには、精神発達とはどういうもので、それがどのような仕組みで、どんなプロセスで進むものかをよく知っていることが欠かせないのでそこに主眼をおく。 |
| ②③のいずれか一科目として読み替え | 2014 | 障害児心理学特論 | 小川恵 | 無し | 臨床心理学的な理解と支援は大きな課題であり、そのために必要な基礎的な知識と考え方を講じる。発達障害の理解と支援のためには、精神発達とはどういうもので、それがどのような仕組みで、どんなプロセスで進むものかをよく知っていることが欠かせないのでそこに主眼をおく。 |

| 公認心理師科目 対応番号 | 開講年度 | 科目名 | 担当教員 | 副題 | 内容 |
|-----------------------|-------------------------|---------------------------------|-------|-------------------------------------|--|
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 1999・2000・2001・ 2002 | 心理学特殊研究3 | 佐々木正伸 | 加齢の心理学 | 成人期での年齢の増加に伴う心理機能の変化を調べる。始めに種々の記憶の加齢変化の問題を取り上げ、その分野の適切な文献を選んで講読する。続いて、中高齢者に対する心理的援助に関する研究の方法上の問題を取り上げる。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2008 | 心理学特殊研究8 (認知心理学特論2) | 針生悦子 | ことばの発達心理学 | ヒトは言語をどのように獲得するのか、またそのことによって何がもたらされるのかについて、認知心理学、発達心理学の知見をもとに論じる。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2000 | 心理学演習2 | 齋賀久敬 | 認知発達の諸問題 | 知覚・学習・記憶・思考など、いわゆる認知機能の発達の発達変化に関する諸問題について、文献による検討を行う。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 1999 | 心理学特別研究2 | 山本政人 | 発達研究の理論と方法 | 乳幼児の発達に関する文献を読み、発達理論と研究方法について検討する。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2000 | 心理学特別研究2 | 山本政人 | 発達心理学の動向 | 比較的新しい発達心理学の研究論文を講読し、研究動向を知ると同時に研究方法を検討する。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2004・2005 | 心理学特別研究2 | 山本政人 | 発達障害への心理学的アプローチ | 比較的新しい発達心理学の研究論文を講読し、研究動向を知ると同時に、そこで用いられている研究方法と実践的意義について検討する。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2006 | 心理学特別研究2 (発達心理学特論1) | 浜谷直人 | 発達臨床支援の実践と理論 | 保育園・幼稚園・学校での発達障害児・虐待を受けた子どもへの発達臨床支援の実際の状況に関心を持ち、支援に関する実践と理論の基礎的な力量を形成することを目的とする。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2007 | 心理学特別研究2 (発達心理学特論1) | 山本政人 | 発達障害への心理学的アプローチ | 比較的新しい発達心理学の研究論文を講読し、研究動向を知ると同時に、そこで用いられている研究方法と実践的意義について検討する。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2008 | 心理学特別研究2 (発達心理学特論1) | 山本政人 | 発達心理学研究の諸問題 | 比較的新しい発達心理学の研究論文を講読し、研究動向を知ると同時に、そこで用いられている研究方法と実践的意義について検討する。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2009 | 発達心理学特論1 | 山本政人 | 発達心理学の研究と課題 | 発達心理学の研究動向を知るとともに、発達研究の課題を探る。また発達研究に求められる研究倫理について学ぶ。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2010 | 発達心理学特論1 | 山本政人 | 無し | 発達心理学の研究動向を知るとともに、発達研究の課題を探る。また発達研究に求められる研究倫理について学ぶ。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2011・2012・2013 | 発達心理学特論1 | 山本政人 | 発達心理学の課題 | 発達心理学の研究動向を知るとともに、発達研究の課題を探る。また発達研究に求められる研究倫理について学ぶ。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2014・2015・2016 | 発達心理学特論1 | 山本政人 | 現代発達心理学の動向 | 発達心理学の研究動向を知るとともに、発達研究の課題を探る。また発達研究に求められる研究倫理について学ぶ。 |
| ②③のいずれか一科目 として読み替え | 2017 | 発達心理学特論1 | 山本政人 | 発達研究の動向と課題 | 発達心理学の研究動向を知るとともに、発達研究の課題を探る。また発達研究に求められる研究倫理について学ぶ。 |
| ③ | 1992 | 心理学特殊研究2 | 竹綱誠一郎 | goal-settingの研究 | 目標設定 (goal-setting)の手続きは、我々の動機づけや行動の変容に役立つものであり、セルフ・コントロールの理論においても重要な役割を果たす概念である。 |
| ③ | 2003 | 心理学特殊研究3 | 鎌原雅彦 | 無し | 達成動機づけ及び動機づけの低下としての抑うつに関する近年の論文を輪読し、この領域での最新の知見、動向を知る。 |
| ③ | 2008 | 心理学特殊研究7 (心理療法特論1) | 鶴養啓子 | 学校臨床心理学 | 学校教育の特徴と学校教育相談について理解し、スクールカウンセラーの歴史について学ぶとともに、コミュニティ援助としてのスクールカウンセリングについて実践事例研究を材料として研究する。 |
| ③ | 2009 | 心理療法特論4 | 鶴養啓子 | 学校臨床心理学 | 学校教育の特徴と学校教育相談について理解し、スクールカウンセラーの歴史について学ぶとともに、コミュニティ援助としてのスクールカウンセリングについて実践事例研究を材料として研究する。 |
| ③ | 2010 | 心理療法特論5 | 鶴養啓子 | 学校臨床心理学 | 学校教育の特徴と学校教育相談について理解し、スクールカウンセラーの歴史について学ぶとともに、コミュニティ援助としてのスクールカウンセリングについて実践事例研究を材料として研究する。 |
| ③ | 2011・2013 | 学校心理臨床特論 | 鶴養啓子 | 学校臨床心理士としての基礎科目 | 学校教育の特徴と学校教育相談について理解し、スクールカウンセラーの歴史について学ぶとともに、コミュニティ援助としてのスクールカウンセリングについて実践事例研究を材料として研究する。 |
| ③ | 2015・2017 | 学校心理臨床特論 | 伊藤亜矢子 | 無し | 学校現場を理解し、学校という場を生かした心理臨床実践について具体的に学ぶ。 |
| ③ | 2018 | 学校臨床心理学特論(教育分野 に関する理論と支援の展開) | 伊藤亜矢子 | | 学校内の諸問題について理解を深め、心理臨床的な実践の切り口を自ら見出し、学校現場でスクールカウンセラー等として心理臨床実践が行える基礎を養う。 |
| ③ | 1999・2002 | 心理学特別研究5 | 竹綱誠一郎 | 教育心理学の諸問題 | 教育心理学の最新の英文論文を輪読することを通して、教育心理学研究の最新の動向を把握すると同時に、論文を批判的に読むことによってそれぞれの研究の問題点にも気付いてほしい。 |
| ③ | 2001 | 心理学特別研究5 | 竹綱誠一郎 | 教育心理学研究の動向と問題 | Journal of Educational PsychologyおよびBritish Journal of Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ることと同時に、それぞれの研究の問題点にも気付いてほしい。 |
| ③ | 2003 | 心理学特別研究5 | 竹綱誠一郎 | 学校場面における教師と 児童・生徒のストレスに 関する研究 | 最新の英文論文の中から教師ストレスと児童・生徒ストレスを取り扱ったものを中心に輪読する。 |
| ③ | 2004 | 心理学特別研究5 | 竹綱誠一郎 | 学校場面における教師と 児童・生徒のストレスに 関する研究 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2005 | 心理学特別研究5 | 竹綱誠一郎 | 教育心理学研究の諸問題 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2006 | 心理学特別研究5 (心理学研究法特論1) | 竹綱誠一郎 | 教育心理学研究の諸問題 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2001・2002・2003・ 2005 | 心理学演習3 | 篠田彰 | 行動の比較心理学的研究 | 動物(ヒトを含む)の行動を心理学的観点から考察している文献を選び、それらを講読することにより、比較心理学、特に学習、動機づけ、情動の分野で重要視されている問題、理論、研究法についての理解を深める。 |
| ③ | 2006 | 心理学演習3 (学習心理学特論1) | 篠田彰 | 行動の比較心理学的研究 | 動物(ヒトを含む)の行動を心理学的観点から考察している論文を選び、それらを講読することにより、比較心理学、特に学習、動機づけ、情緒の分野で重要視されている問題、理論、研究法について理解を深める。 |
| ③ | 2007・2008 | 心理学演習3 (教育心理学特論1) | 竹綱誠一郎 | 教育心理学研究の諸問題 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2009・2015・2017 | 教育心理学特論1 | 竹綱誠一郎 | 教育心理学の諸問題 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2010 | 教育心理学特論1 | 上淵寿 | 研究法・感情・動機づけ の心理学 | 心理学研究に必要な研究法あるいは感情および動機づけの考え方について、知識を得て、それを実際の研究に使えることを目的とします。 |
| ③ | 2011・2012・2013・ 2014 | 教育心理学特論1 | 竹綱誠一郎 | 無し | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2016 | 教育心理学特論1 | 鎌原雅彦 | 教育心理学の諸問題 | Journal of Educational Psychology に掲載された最新論文を講読する。教育心理学研究の最新の研究動向を知ること、教育心理学研究の方法とデータ解析の知識を得ること、および参加者同士の議論を通してそれぞれの内容についての理解を深める。 |
| ③ | 2015 | 社会心理学特論2 | 伊藤忠弘 | 動機づけの科学 | Advances in Motivation Scienceの輪読を行う。 |
| ③ | 2016・2017 | 社会心理学特論2 | 伊藤忠弘 | 動機づけの科学 | 動機づけの心理学研究の理論を学ぶ。 |

| 公認心理師科目 対応番号 | 開講年度 | 科目名 | 担当教員 | 副題 | 内容 |
|-----------------|-------------------------------|----------------------------------|--------------|--------------------|--|
| ③ | 2001 | 心理学演習 2 A | 箕浦康子 | 文化のなかでの人間の発達 | 子どもは、育ちの場に充満している文化的意味を、周りの人や事物との相互交渉を重ねるうちに、自己流に内に取り込み、文化の衣（意味空間）をまとうていく。本講義ではマクロな社会・文化体系である家族や教育制度などがどのようなメカニズムで子どもを文化的存在に変容させるかを扱った研究論文を講読することで、文化と人間発達の交点を探る。また、文化心理学の主要な研究方法であるフィールドワークについても触れたい。 |
| ③ | 2001 | 心理学演習 2 B | 鎌原雅彦 | 動機づけと抑鬱の諸問題 | 動機づけ及び抑うつに関する近年の実証的研究論文を輪読し、研究動向についての理解を深め研究方法について検討する。 |
| ③ | 2002 | 心理学特別研究 7 | 鎌原雅彦 | 動機づけと抑鬱の諸問題 | 達成動機づけ及び動機づけの低下としての抑うつに関する近年の論文を輪読し、この領域での最新の知見、動向を知る。 |
| ③ | 2004 | 心理学特別研究 7 | 鎌原雅彦 | 無し | 達成動機づけ及び動機づけの低下としての抑うつに関する近年の論文を輪読し、この領域での最新の知見、動向を知る。 |
| ③ | 2016 | 認知心理学特論 1 | 今井久登 | 基礎研究の知見を臨床に活かす道を探る | 心理療法と認知神経科学の融合を目指す Tryon, W.W. (2014). Cognitive Neuroscience and Psychotherapy: Network Principles for a Unified Theory, Academic Press. をテキストとして、認知神経科学の発達過程に関する知見（言語獲得過程、チョムスキーの理論、ピアジェの構成主義、ニューラルネットワークのモデル等）を把握し心理療法や臨床実践に役立てることを目的とする。 |
| ④ | 2008 | 心理学特殊研究 3 (社会心理学特論 2) | 越智啓太 | 犯罪者行動の心理学 | 犯罪が生じてから犯人を捕まえるまでの過程、いわゆる捜査過程、に心理的な知識を用いる研究について主に扱う。特に、犯罪者の行動パターンについての研究と、行動パターンからの犯人の割り出し、動機の割り出しなどに関する比較的新しい研究を紹介する。 |
| ④ | 2006 | 心理学特殊研究 8 (認知心理学特論 2) | 越智啓太 | 犯罪捜査の心理学 | 捜査心理学についてその概要から最新の研究成果までを紹介する。捜査心理学とは、犯罪捜査つまり犯罪現場を調査し、犯人を発見し証拠を収集して起訴するまでの過程における心理学知識の応用について研究する分野である。 |
| ④ | 2018 | 犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | 伊藤直文 | | 犯罪・非行を中心に司法領域における心理支援の理論と技法を学ぶ。犯罪・非行領域の知見と理論、支援技法などについて文献購読を軸にしながらかん検討する。また、どのような心理臨床領域においても必須となる家庭事件をめぐる基礎知識と支援のあり方についても、文献購読と解説を行う。 |
| ⑤ | 1993 | 心理学演習 4 | 永田良昭 | 社会行動研究の方法 | 社会行動研究の方法上重要な問題となる事柄について検討する。 |
| ⑤ | 2000 | 心理学演習 4 | 永田良昭 | 社会行動研究の方法 | 個人と社会の関係をいかにとらえるかという視点から、社会行動に関して一般性をもつ仮説、理論を如何に構成し、検証するかを科学的考察を踏まえて検討する。 |
| ⑤ | 2018 | 産業・労働心理支援特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | 馬場洋介 | | 企業組織におけるメンタルヘルス対策の意義、産業保健スタッフ・人事労務管理スタッフ等の役割、関係者との連携、メンタルヘルス不調者への対応、職場環境改善の方法等、産業・労働分野における心理支援の基礎知識を理論や具体的事例によって幅広く学習する |
| ⑥ | 2001 | 臨床心理査定演習 | 相馬壽明 川寄克哲 | 心理アセスメントの実践課題と諸問題 | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2002 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 心理アセスメントの実践課題と諸問題 | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2003・2004・2005・2006・2007・2011 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 無し | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2008 | 臨床心理査定演習 | 佐々木裕子 | 心理検査法によるアセスメント実践 | 臨床判断のための補助用具として用いられる代表的な心理検査法について、その実践的な活用の仕方を学ぶとともに、各自が解釈レポートを作成することで心理検査解釈の実際を体験する。 |
| ⑥ | 2009 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 心理アセスメントの体験的習得 | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2010 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 臨床心理職技能としての査定習得 | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2012・2013・2015・2016 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 心理査定バッテリーの所見作成 | 心理査定論の理論と実際について基本的事項を学び、実習によって心理査定の方法を修得しながら、心理査定の臨床的アプローチについて理解を深める。 |
| ⑥ | 2014・2017 | 臨床心理査定演習 | 吉川眞理 | 無し | 臨床心理アセスメントの倫理、質問紙法、作業検査、知能検査、投影法の歴史、作成過程、施行方法、解釈法、その限界を学ぶ。後期では、心理検査バッテリーにより、演習協力者を得て、実際に心理検査を施行し、設定された目的に沿った所見を作成し、実際にフィードバックを行う。 |
| ⑥ | 2001 | 心理学特殊研究 2 | 伊藤研一 | 心理臨床実践研究 | 心理臨床の実践上、重要と思われるアセスメント技法、援助技法について、心理検査（ウェクスラー式知能検査、ロールシャッハ・テスト）、およびロール・プレイング等を通じて体得することを目的とする。 |
| ⑥ | 2002 | 心理学特殊研究 2 | 伊藤研一 | アセスメントとカウンセリング演習 | 心理臨床の実践上、重要と思われるアセスメント技法、援助技法について、心理検査（ウェクスラー式知能検査、ロールシャッハ・テスト）、およびロール・プレイング等を通じて体得することを目的とする。 |
| ⑥ | 2003・2004 | 心理学演習 2 | 伊藤研一 | 臨床心理学的アセスメント | 前半は、心理検査（ウェクスラー式知能検査、ロールシャッハテスト）のデータをもとにクライアントのパーソナリティや物事の捉え方、感じ方を理解する演習を行う。後半から、フォーカシング実習を行い、フォーカシングの基本を身につけ、その後面接場面で感情移入的に相手を理解する実習を行う。 |
| ⑦ | 1992 | 心理学演習 1 | 村瀬孝雄 | 体験過程理論とフォーカシング | Gendinの「体験過程」理論とその実践的応用としてのフォーカシング技法について学習する。 |
| ⑦ | 1999・2000 | 心理学演習 1 | 相馬壽明 | 子どもの心理療法 | 遊戯療法論の理論と実際を中心に、子どもの内的世界とその変容過程について検討する |
| ⑦ | 2005 | 心理学演習 2 | 日笠摩子 | クライアント中心・体験過程療法 | クライアント中心療法と体験過程療法を学ぶことを目的として、論文を講読する。 |
| ⑦ | 2006 | 心理学演習 2 (心理療法特論 1) | 川寄克哲 | 心理療法の実践と諸問題 | 基本的な流れとして、心理療法における心理的構造の変容の過程を、書技法の実習的な体験→ディスカッション→その体験に照らしながらの具体的な事例検討→ディスカッション→その理論的側面の検討→ディスカッション→今後の展望と新たなアイデアの創出、という過程を通して検討していきたい。 |
| ⑦ | 2007 | 心理学演習 2 (心理療法特論 1) | 伊藤研一 | フォーカシング指向心理療法の実習 | 心理療法技法を実習し、その過程と効果について実際に経験し、考える。 |
| ⑦ | 2009・2010 | 心理療法特論 1 | 伊藤良子 | 全体的存在として人間を理解する | 事例をもとに、人間存在のさまざまなあり方について、心理化・身体化・行動化・象徴化の観点から考える。 |
| ⑦ | 2001・2002 | 心理学特殊研究 5 | 織田尚生 | 心理療法特論 | 分析心理学と精神分析とに共通する力動的な心理療法について、主として無意識的なものの配置という視点から検討を加える。 |
| ⑦ | 2003 | 心理学特殊研究 5 | 織田尚生 | 心理療法特論 | 分析心理学と精神分析とに共通する力動的な心理療法について、主として無意識的なものの配置という視点から検討を加える。 |
| ⑦ | 2004・2005 | 心理学特殊研究 5 | 織田尚生 | 心理療法特論 | 分析心理学と精神分析とに共通する力動的な心理療法について、主として無意識的なものの配置という視点から検討を加える。 |
| ⑦ | 2006 | 心理学特殊研究 5 (心理療法特論 2) | 織田尚生 | 心理療法特論 | 分析心理学と精神分析とに共通する力動的な心理療法について、主として無意識的なものの配置という視点から検討を加える。 |
| ⑦ | 2007 | 心理学特殊研究 5 (心理療法特論 2) | 織田尚生 | 無し | 分析心理学と精神分析とに共通する力動的な心理療法について、主として無意識的なものの配置という視点から検討を加える。 |
| ⑦ | 2009・2010 | 心理療法特論 2 | 伊藤良子 | 全体的存在として人間を理解する | 1に引き続き、行動化について講義し、最後に心理療法過程に生じる象徴化の重要性について事例をもとに論じる。 |
| ⑦ | 1999・2000 | 心理学特殊研究 2 | 川寄克哲 | 心理療法の諸問題 | 心理療法の過程の中で生じる諸問題を事例や理論を通して探求していく。 |
| ⑦ | 2003・2004 | 心理学特殊研究 2 | 小坂和子 | 心理療法と個性化 | いわゆる「構造化された心理療法」の理論とその実際とを、臨床事例から学ぶ。 |
| ⑦ | 2005 | 心理学特殊研究 2 | 猪股剛 | 心理療法におけるイメージと思索 | 深層心理学においてイメージにできる限り深く深く出会うことを目的とする。心理臨床の実践委そくして 面接場面に現れるイメージに重きを置き、一つ一つの事例を通じて魂に関わるイメージの思索を深めていきたい。 |
| ⑦ | 2006 | 心理学特殊研究 2 (心理療法特論 3) | 猪股剛 | 心理療法におけるイメージと思索 | 深層心理学においてイメージにできる限り深く深く出会うことを目的とする。心理療法の実践に即し、また心理学の現実性に立ち戻りながら、イメージそのものの中に下りていくことをグループワーク的に目指したい。また、深層心理学のいくつかの基本的な文献の購読も行う予定である。 |

| 公認心理師科目 対応番号 | 開講年度 | 科目名 | 担当教員 | 副題 | 内容 |
|-----------------|---|---------------------------|-------|----------------------|--|
| ⑦ | 2007 | 心理学特殊研究2 (心理療法特論3) | 猪股剛 | イメージと思索の心理療法 | 深層心理学においてイメージにできる限り広く深く出会うことを目的とする。心理療法の実践に即し、また心理学の現実性に立ち戻りながら、イメージそのものの中に下りていくことをグループワーク的に目指したい。また、深層心理学のいくつかの基本的な文献の購読も行う予定である。 |
| ⑦ | 2008 | 心理学特殊研究2 (心理療法特論3) | 小坂和子 | 構造からみた心理療法過程 | 力動的療法、あるいは無意識の存在を前提とする深層心理学的援助における構造論を論じる。心理療法における「転移」関係、またその関係性が治療的に展開するための場としての「治療構造」の諸相を、精神分析・対象関係論・分析心理学の文脈の中で再検討する。 |
| ⑦ | 2009 | 心理療法特論3 | 小坂和子 | 無し | 心理力動的視点にたつて、心理療法の理論と実践を深める。 |
| ⑦ | 2010 | 心理療法特論3 | 小坂和子 | イメージの定位と跳躍 | 心理力動的視点にたつて、心理療法の理論と実践を深める。 |
| ⑦ | 2007 | 心理学特殊研究6 (心理療法特論4) | 小坂和子 | 心理療法における「夢」の解釈 | 私たちの生きている、今・ここでの文脈で「夢」を解釈することを通して、分析心理学的臨床に触れることを目指したい。「夢」をめぐる、とくにフロイトからウィニコットへの対象関係論、ユングからヒルマンへの元型心理学、あるいはレム睡眠からneuroscienceへの発展という、現代日本の臨床に直結する3つの展開を、分析心理学的視点から再考し、そのうえで、受講生それぞれの「私」に根拠していくような議論を深める。 |
| ⑦ | 2008 | 心理学特殊研究6 (心理療法特論4) | 小坂和子 | 「人格障害」と心理療法 | 「人格障害」なるものをめぐって、古典的理論から、現代臨床までの展開を、原著に触れながら再考し、受講生それぞれの「臨床感」を構築するような議論を深めたい。 |
| ⑦ | 2010 | 心理療法特論4 | 藤山直樹 | 精神分析的なセラピーに向けて | 実践と理論の体系である精神分析を学ぶことは、基本的にそれを実践することと精神分析の主体となる体験とを踏まえなければならない。そのため、そうした学びの準備になる可能性のある知識を与えることを目的とする。 |
| ⑦ | 2009 | 心理療法特論5 | 藤山直樹 | 精神分析的なセラピーへの道 | 実践と理論の体系である精神分析を学ぶことは、基本的にそれを実践することと精神分析の主体となる体験とを踏まえなければならない。そのため、そうした学びの準備になる可能性のある知識を与えることを目的とする。 |
| ⑦ | 2012 | 精神分析学特論 | 藤山直樹 | 無し | 実践と理論の体系である精神分析を学ぶことは、基本的にそれを実践することと精神分析の主体となる体験とを踏まえなければならない。そのため、そうした学びの準備になる可能性のある知識を与えることを目的とする。 |
| ⑦ | 2014・2016 | 精神分析学特論 | 藤山直樹 | 精神分析という営みの理解に向けて | 精神分析という営みがどのようなものであるのか、他の臨床実践とどのように違い、どのように同じなのかということを示す。 |
| | 2016 | 臨床心理学演習2 | | 無し | |
| ⑦ | 2001・2002 | 臨床心理面接特論 | 川崎克哲 | サイコセラピーの理論と実践に関する諸問題 | 無し |
| ⑦ | 2003・2004・2006・2008・2009・2010・2011・2013・2014・2015・2016・2017 | 臨床心理面接特論 | 川崎克哲 | 無し | 心理療法における言語・イメージ、治療者とクライアントの関係性の機能、効果、構造に関して、実践面および理論面から探求していく。 |
| ⑦ | 2005 | 臨床心理面接特論 | 鶴養啓子 | 無し | 心理臨床における面接のすすめ方について、インタークから終結までの流れを理解するとともに、さまざまな臨床心理面接について、その特徴と留意点を理解する。 |
| ⑦ | 2007 | 臨床心理面接特論 | 川崎克哲 | 心理療法の諸問題 | 心理療法における言語・イメージ、治療者とクライアントの関係性の機能、効果、構造に関して、実践面および理論面から探求していく。 |
| ⑦ | 2012 | 臨床心理面接特論 | 伊藤研一 | 無し | 臨床心理面接を経験し、その経験についてフォーカシングを行うことによって知的理解と情緒的経験を統合する。 |
| ⑦ | 2011・2013 | 力動的療法論 | 小坂和子 | 日常性の断層としてのイメージ界 | 心理力動的視点にちなながら、フロイト派・ユング派・現代対象関係論の各学派が示す心理療法の理論について理解を深めつつ、今日の心理面セルの実際問題に架橋させていく。 |
| ⑦ | 2012 | 力動的療法論 | 小坂和子 | 精神分析と分析心理学の接点 | 心理力動的視点にたつて、心理療法の理論と実践を深める。 |
| ⑦ | 2014 | 力動的療法論 | 小坂和子 | 臨床における文化感覚 | 心理力動的視点にたつて、心理療法の理論と実践を深める。 |
| ⑦ | 2015・2016・2017 | 力動的療法論 | 田中健夫 | 無し | 力動的療法論の基礎となる精神分析的人格論・発達論および治療機序について、主に対象関係論に焦点をあてて解説していきたい。心理療法の多くの学派は、精神分析の知見を拡大・深化・批判しながら成立してきており、その出発点であるフロイトをはじめとする精神分析の考え方を理解することは重要である。 |
| ⑦ | 2013・2014 | 来談者中心療法論 | 伊藤研一 | 無し | 来談者中心療法およびフォーカシング指向心理療法の理論と実際について知見を深める。 |
| ⑦ | 2015・2016・2017 | 来談者中心療法論 | 沢崎俊之 | 無し | 来談者中心療法の基本を学び、他の療法との比較によってその特質の理解を深める。さらに人間性心理学の発展としてのアサーションにも触れる。 |
| ⑦ | 2015・2017 | 臨床心理学演習3 | | 来談者中心療法論 | |
| ⑦ | 2013・2014 | 心理療法技法論 | 伊藤研一 | 無し | 施行カウンセリングを経験し、その経験についてフォーカシングを行うことによって知的理解と情緒的経験を統合する。 |
| ⑦ | 2015・2016・2017 | 心理療法技法論 | 伊藤研一 | 無し | 心理療法技法の理論と実際について知見を深める。 |
| ⑦ | 2000 | 心理学特別研究2 | 伊藤研一 | フォーカシング指向心理療法 | ジェンドリンの提唱した体験過程概念とフォーカシング志向心理療法について学ぶ。さらに体験過程概念とその心理療法以外の援助技法の統合について検討する |
| ⑦ | 2015・2017 | 臨床心理学演習4 | 田中康裕 | 無し | 事例提供者が主観的な読みを提示し、参加者とともに質疑応答やディスカッションを通じて心理臨床事例に関して理解を深めていく。同時にセラピストとしてあるべき態度、関わり方等に関して、各自の実際事例と関連付けながら、体得していく。 |
| ⑦ | 2016 | 臨床心理学特別研究1 | 金吉晴 | 無し | 心的トラウマならびにPTSD、複雑性悲嘆といった状態の概念、評価、病状形成と回復について、様々な立場を踏まえて紹介するとともに、現代の標準的な理解を解説する。また持続エクスポージャー療法の紹介を通じて、トラウマからの回復過程を呈示し、回復概念についても紹介する。 |
| ⑦ | 2015・2016・2017 | 臨床心理学特別研究3 | 田中健夫 | 無し | 力動的な視点にたつた心理面接およびプレイセラピーについて、事例の理解と介入について具体的に検討する。精神分析の、中でも対象関係論を軸にした事例検討を行う。言葉から離れないことやセラピストの内的対話の重視を含め、技法がもつ意味についても理解を深めていきたい。 |
| ⑧ | 1992 | 心理学特別研究5 | 古畑和孝 | 社会心理学-社会的比較の研究 | 現代社会心理学における重要な研究テーマのひとつ社会的比較を取り上げ、考察する。 |
| ⑧ | 2005 | 心理学特殊研究3 | 宮田加久子 | インターネットの社会心理学 | インターネットでのコミュニケーションの性質を考えた上で、インターネットを通じた社会ネットワークの維持や形成、協力を促進することを通じての社会的ジレンマの解決、そしてエンパワーメントについて、社会関係資本の理論を用いて解説し、メディアリテラシーの育成を目指す。 |
| ⑧ | 2007 | 心理学特殊研究3 (社会心理学特論2) | 宮田加久子 | 無し | インターネットでのコミュニケーションの性質を考えた上で、インターネットを通じた社会ネットワークの維持や形成、協力を促進することを通じての社会的ジレンマの解決、そしてエンパワーメントについて、社会関係資本の理論を用いて解説し、メディアリテラシーの育成を目指す。 |
| ⑧ | 2006 | 心理学特殊研究6 (発達心理学特論2) | 繁多進 | アタッチメントの理論と実際 | アタッチメント理論およびアタッチメントに関する研究成果について理解を深めるとともに、アタッチメントの発達に問題がある場合の心理臨床についても考える。 |
| ⑧ | 2006 | 心理学特別研究7 (心理学研究法特論2) | 安藤清志 | 「喪失」とトラウマ後の成長 | トラウマ後の成長を扱った内外の様々な研究を概観しながら、「個人と社会」のかんけいについて考える。 |
| ⑧ | 2007 | 心理学特別研究7 (心理学研究法特論2) | 安藤清志 | 「残虐性」の社会心理学 | 同調、服従、道徳離脱、罪悪感、社会的カテゴリー化、コミットメント、認知的不協和など、おもとして社会心理学の観点からこの問題を考察する。 |
| ⑨ | 2018 | 心の健康教育特論(心の健康教育に関する理論と実践) | 沢崎 俊之 | | 心の健康教育について、さまざまな場面を想定して、その内容や方法論を紹介する。来談者中心主義に基づく傾聴や、アサーションのワーク、ストレス反応へのケア、アンガーマネジメント等を扱う。 |
| ⑩ | 1992 | 心理学特殊研究3 | 弘中 正美 | サイコ・セラピー研究 | サイコ・セラピーの実践側の検討・分析、およびサイコ・セラピーの技法(箱庭療法など)に関する体験学習を中心に進める。 |
| ⑩ | 2001-2017 | 臨床心理実習 | | ケーススタディ及びスーパーヴィジョン | ①インターク面接、心理査定の実習に基づく報告とそのスーパーヴィジョンおよびケースカンファレンスにおける検討。②個別のケースを担当し、その臨床経験に基づく報告とスーパーヴィジョンおよびケースカンファレンスにおける検討。 |

| 公認心理師科目 対応番号 | 開講年度 | 科目名 | 担当教員 | 副題 | 内容 |
|-----------------|------|-----|------|----|----|
|-----------------|------|-----|------|----|----|

※ 心理学特別研究は、博士前期課程の学生が履修する場合、「心理学特殊研究」の単位となる。